

土木学会 コンクリート委員会  
平成 20 年度 第 2 回 規準関連委員会 議事録

1. 日 時：平成 20 年 7 月 28 日（月）14:00-17:00
2. 場 所：土木学会会議室
3. 出席者：橋本親典（委員長）、鎌田敏郎（幹事長）、伊藤康司、上野敦、浦野真次、片平博、川西貴士、武若耕司、中村雅之、野村倫一、浜田秀則、原田修輔、久田真、八木圭太郎、横関康祐、田中秀樹（記録） \*敬称略
4. 配布資料：
  - 2-0 平成 20 年度 第 2 回 規準関連小委員会 議事次第
  - 2-1 平成 20 年度 第 1 回 規準関連小委員会 議事録（案）
  - 2-2 示方書規準編の出版会計収支（メールコピー）
  - 2-3-1 土木学会コンクリート委員会規準関連小委員会委員構成（案）
  - 2-3-2 平成 20 年度 規準関連小委員会作業部会
  - 2-4-1 土木学会規準関連小委員会プレストレストコンクリート用シースの試験方法 WG 第 1 回議事録（案）
  - 2-4-2 土木学会規準関連小委員会プレストレストコンクリート用シースの試験方法 WG 第 2 回議事録（案）
  - 2-5-1 武若委員提案 20080626（メールコピー）
  - 2-5-2 エポキシ樹脂塗装鉄筋関連の諸規格・規準の改正に関する提案
  - 2-6-1 将来、土木学会規準として規準化が望まれる試験方法に関する調査のお願い
  - 2-6-2 第 5 章 新しいコンシステンシー評価試験方法の提案（310 委員会回答）
  - 2-6-3 表面含浸材を適用した施工性の試験方法（試案）（325 委員会回答）
  - 2-6-4 規準関連小委員会アンケート結果（326 339 委員会回答）
  - 2-7-1 骨材の凍結融解抵抗性
  - 2-7-2 骨材の乾燥収縮への影響
  - 2-7-3 再生骨材からの微量成分溶出量試験方法

5. 議事

(1)委員長挨拶

橋本委員長より、今年度の活動方針および将来規準化が望まれる試験方法を取りまとめたコンクリート技術シリーズの講習会を来年度（4 月予定）行うことについて常任委員会で承認されたことが報告された。

(2)議事録確認

浦野委員より第 1 回規準関連小委員会議事録案（資料 2-1）の説明があり、『（5）今後規準化が望まれる試験方法に関して…、本委員会で審議し掲載に値する』を『本委員会で審議し検討に値する』と修正することで承認された。

(3)常任委員会報告

橋本委員長より平成 20 年 7 月 8 日に開催された常任委員会で、  
①コンクリート技術シリーズの作成と講習会の開催について承認された。

②規準編の出版会計収支が赤字であるとの報告がなされたが、その後の調査で間違いであり、大幅な黒字になっていること（資料 2-2）が判明し、販売方法などの問題はない。との報告があった。

#### (4)委員交代について

橋本委員長より、規準関連小委員会委員交代 4 名（荒巻委員→野村委員，入矢委員→川西委員，酒井委員→野島委員，平野委員→関野委員；資料 2-3-1）および同作業部会委員構成変更（資料 2-3-2）について、少委員会構成は 9 月 9 日開催常任委員会に修正案を提出し承認を得る、また、作業部会は報告のみ行うことの説明がなされた。

作業部会については、補修・材料 WG（濱田主査，江口委員，野村委員，国枝委員，野島委員，新藤委員，田中委員，寺村委員，中村委員，皆川委員（外部委員））を追記することで承認された。なお、技術シリーズの資料作成は、規準改定各 WG で行うこととした。

#### (5)各 WG 報告

各 WG から以下の報告がなされた。

①ホームページWG 上野委員 特に報告事項なし。

②プレストレストコンクリート用シーす試験方法 WG 中村委員

第 1 回，第 2 回 WG 議事録について，各試験方法の現状と土木学会規準と JHスタンダードとを考慮してまとめていく旨の活動内容について報告があり，以下の意見が出された。

- ・ 試験内容を検討し，現在見直しが進められている JH スタンダードが適用できれば，関連規準として掲載してもよい。土木学会規準案としては，プラスチックシーすと鋼製シーすの両者をカバーできるものがベストである。
- ・ 試験項目の実験データについて，各メーカーや施工者で揃えることができる。
- ・ 4 種類の試験項目（外水圧試験，曲げ特性試験，すり減り抵抗試験，付着性能試験）の名称について，外水圧試験だけが試験方法そのものとなっているが，他の試験のように必要な性能が分かる名称にはならないのか検討しておく必要がある。
- ・ 本WGの検討結果は，来年 4 月に骨子をまとめられれば講習会で説明するが，間に合わなければ，2010 年制定版にあわせてもよい。

③鋼材・補強材 WG 武若委員

エポキシ樹脂塗装関連鉄筋（資料 2-5-1）について，現在の規準関連の内容検討および名称をエポキシ樹脂に限定しないものに変更する提案がなされ，鋼材・補強 WG の樁主査に意見を伺って本 WG で見直し検討していくこととした。（樁主査へは，橋本委員長から確認する。）

④補修・材料 WG 濱田委員

現在すり減り試験の規準化について，現在の試験方法の調査を進めており，その結果を次回 8 月 28 日 WG で検討することが報告された。

#### (6)今後土木学会規準として制定が望まれる試験方法に関するアンケート調査

橋本委員長より，3 種委員会向けに橋本委員長名でアンケート調査（資料 2-6-1）を実施し，310 委員会（資料 2-6-2），325 委員会（資料 2-6-3），326 委員会および 339 委員会（資

料 2-6-4) から、回答があった旨の説明がなされた。それぞれの内容に関して、現在各 WG で調査しているものと併せて検討することとした。(橋本委員長より各 WG 主査に資料ファイルを送付する。)

#### (7)技術シリーズ作成状況

##### ①セメント・骨材・混和材料 WG

片平委員より、骨材の凍結融解抵抗性(資料 2-7-1)、骨材の乾燥収縮への影響(資料 2-7-2)、再生骨材からの微量成分溶出量試験方法(資料 2-7-3)の説明があった。技術シリーズのまとめ方としては、本資料のとおり、「概要」、「現状」、「今後の課題」、「参考文献」の順番で記述することとし、各 WG は、片平委員からの資料を標準のパターンとして作業を進めることとなった。

##### ②フレッシュコンクリート WG

新しいコンシステンシー評価試験方法(310 委員会)の他、単位水量測定、漏斗試験関連を取り纏めていく予定

##### ③硬化コンクリート WG

弾性波関連(326 委員会)については、規格の形で整理する。

##### ④製品・施工機械化等 WG

今回特に本範囲ではないと思われる。

##### ⑤補修、注入材等 WG

すり減りに関する試験方法を調査中であり、表面含浸材施工性の試験方法(325 委員会)については、コンクリート表面被覆および表面改質技術研究小委員会メンバーを岸先生に依頼して紹介いただき、外部委員として参画してもらい検討する。

#### (8) 技術シリーズ作成の今後の予定

・英文 3 編(四電極法, EPMA 等)について、黄色本(JSCE Guidelines for Concrete)として出版するか、あるいは技術シリーズに添付の形で出すかについては、橋本委員長から、土木学会出版事業課に相談する。

・各 WG で、9 月末までに技術シリーズの目次案を鎌田幹事長宛にメールし、目次案についてメール審議を行う。

・平成 20 年 12 月には、各原稿を提出する。平成 21 年 2 月頃に WG 主査・委員長・幹事長で内容確認のための会合を持ち、2 月末～3 月頭に印刷原稿を仕上げる。

#### 6. 第 3 回規準関連小委員会開催予定

①日時：平成 20 年 12 月 16 日(火) 14:00～17:00 (終了後忘年会予定)

②議題：コンクリート技術シリーズ原稿説明、内容審議